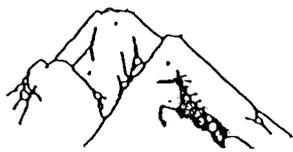


はね馬



妙高市立妙高中学校
学校だより
平成23年9月22日号

地域とともに生きる力を育む

校長 陸 川 晃

今から20年くらい前までは、週末や夏休みともなれば子どもたちが、ボール遊びや自転車に乗って外で仲間と遊んでいる姿がよく見られました。しかし、近ごろは、そのような姿を見ることはまれです。理由は、ゲーム機の普及などによる遊びの変化もありますが、それ以上に少子化が進み、家の近くに一緒に遊べる仲間がいなくなったということも大きな要因です。同級生や同世代の仲間がいないということは、遊びを通してかかわったり、上級生から下級生が学んだり、上級生がリーダーシップを発揮したりする機会がなくなってきたということです。こうした状況を打開するには、学校だけでも、地域だけでも難しく、学校と地域が連携して取り組むことが必要です。

たとえば、各町内では少ない子どもも、学校に集まれば人数がまとまり、集団活動が可能になります。また、小中学校が連携すれば年齢差のあるグループを組織した活動ができます。学校が意図的にこのような活動を仕組むことにより、かつて地域での遊びを通して育まれた生きる力を身に付けさせることができます。一方で大きな問題として、学校にとって新たな教育活動が増えることになり、いろいろな意味で教職員の負担が過重になることや教科の授業時数の確保が挙げられます。特に屋外での活動となればなおさらです。体験活動に伴う事前の現地調査や安全確保などに時間や配慮が必要になります。

妙高中学校区では、いろいろな困難が予想される中で9月29日（木）に小中合同遠足（小1～中3までの縦割り18班編成）を計画しています。事前に遠足コースとなる原通地区自治協議会の役員の皆様にお話をしたところ、大変なご協力をいただきました。事前の現地案内、そして9月10日（土）には、山道の草刈りにご協力をいただきました。改めて、地域の応援があればこそ、地域へ出での体験活動が実現可能になることを実感しました。関係各位に心より御礼申し上げます。



地域の人と教職員が挨拶



山道を草刈りして整備



豊かな自然が残るブナ林



展望台からの眺望（原通方面）

今後も、こうした学校と地域との連携関係を築いていくためには、過重負担にならないよう無理をしないことや双方にとってプラスになるいわゆる WIN - WIN の関係であることが大切であると思います。地域とともに歩む学校づくりは、皆様のご理解とご協力のもとで、一步一步ですが着実に前に進めることができます。

— 創立40周年記念コラム～生徒会旗について～

妙高中学校に生徒会旗があるのをご存じでしょうか。生徒が主役となり、主体的に学校生活の向上のために活動するのが生徒会です。そのシンボルとなる生徒会旗があるということは、それだけ自治意識が高く積極的に生徒会活動に取り組んできているという証でもあります。写真にある生徒会旗は平成12年に作製されました。中央のMSというイニシャルは、妙高中と生徒会を意味し、取り巻く輪と3つの星は、1,2,3学年の協力を表しています。先日の体育祭でも校旗とともに掲揚しましたが、学校行事等で来校の折には、ぜひ注目して見てください。

